

川島町下水道事業 令和6年度上半期 業務状況について

川島町下水道事業における令和6年度上半期(令和6年4月1日～令和6年9月30日)の、業務状況をお知らせします。

川島町内で生活や事業などによって発生する汚水は、下水道処理区域(主に市街化区域)では下水道管内を流れて和光市の県処理施設まで行き、きれいな水にして河川に放流しています。(下水道処理区域外では、各家庭に設置された合併処理浄化槽などで処理して、放流します)

1 業務量 (前年度同期との対比)

	9月30日現在 (a)	前年度同期 (b)	(a)(b)対比	
			増減(c=a-b)	比較(c/b)
行政区域内人口	18,733 人	18,947 人	△ 214 人	△ 1.13 %
処理区域内人口	9,763 人	9,861 人	△ 98 人	△ 0.99 %
水洗化人口	9,584 人	9,670 人	△ 86 人	△ 0.89 %
普及率	52.1 %	52.0 %	0.1 ポイント	0.19 %
水洗化率	98.2 %	98.1 %	0.1 ポイント	0.10 %
汚水処理水量	928,828 m ³	800,425 m ³	128,403 m ³	16.04 %
有収水量	702,306 m ³	684,770 m ³	17,536 m ³	2.56 %
有収率	75.6 %	85.6 %	△ 10.0 ポイント	△ 11.68 %

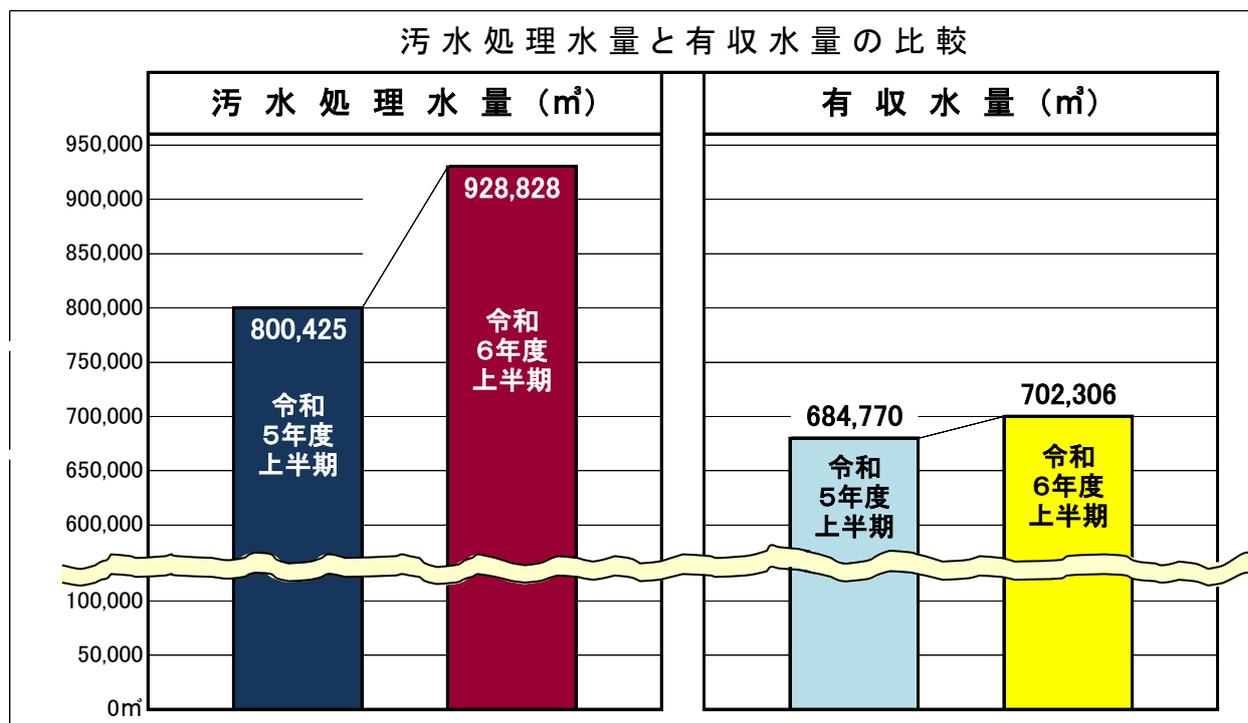
業務量用語の解説

「処理区域内人口」 下水処理区域に居住する人口の集計です。

「水洗化人口」 処理区域内で、下水道に接続している人口の集計です。

「汚水処理水量」 和光市の下水処理場で処理した汚水量です。

「有収率」 処理した汚水のうち、使用料の対象となる有収水の割合です。この値が低い場合、汚水以外(雨水や地下水など)の使用料の対象とならない不明水が混入している状態で、効率的な維持管理ができていないことになります。



2 当期中における経理の状況

(1) 資金の収支状況

前年度繰越金 入 金 出 金 当期末現在高（現金預金残高）
 258,225,258 円 + 83,184,085 円 - 257,137,800 円 = 84,271,543 円

※ 当期末現在高は前年度繰越金より 173,953,715 円減

(2) 予算と事業収支状況

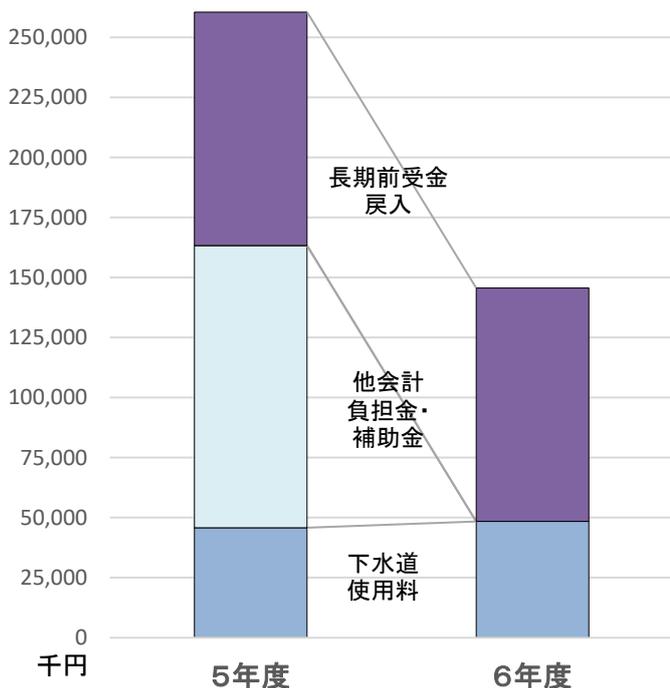
○ 収益的収支

下水道使用料や町からの負担金等を財源として、汚水の処理や下水道管の維持管理等に使う予算です。

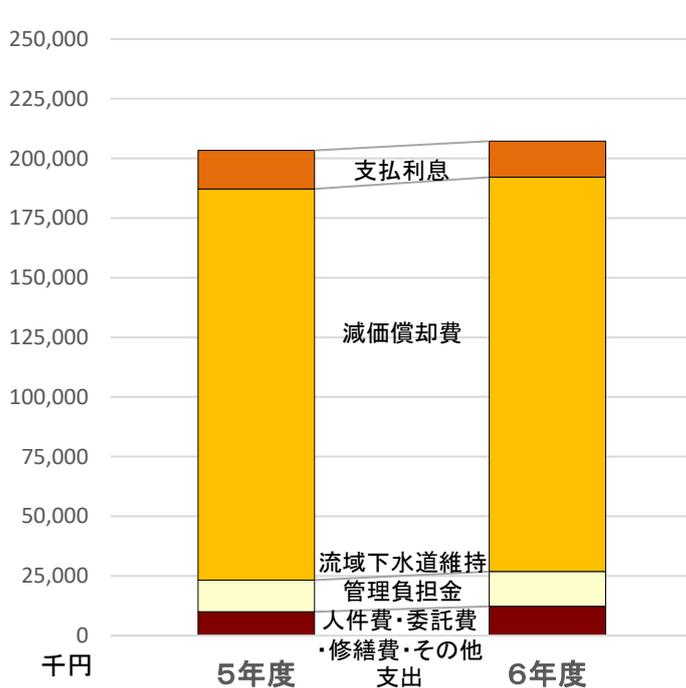
消費税込額

	予算額 (千円)	実績 (a) (千円)	予算 執行率 (%)	前年度同期 実績 (b) (千円)	前年度同期 からの増減 (千円)	増減	
						率 (%)	
収 入	下 水 道 使 用 料	143,035	48,382	33.83	45,807	2,575	5.62
	他会計負担金・他会計補助金	138,176	0	0.00	117,382	△ 117,382	0.00
	国 庫 補 助 金	6,000	0	0.00	0	0	0.00
	そ の 他 収 益	4,103	30	0.73	56	△ 26	△ 46.43
	長期前受金戻入額（当期予定分）	194,448	97,224	50.00	97,191	33	0.03
	合 計	485,762	145,636	29.98	260,436	△ 114,800	△ 44.08
支 出	人 件 費	12,691	5,646	44.49	5,744	△ 98	△ 1.71
	委 託 費	63,276	4,448	7.03	1,945	2,503	128.69
	修 繕 費	10,180	422	4.15	823	△ 401	△ 48.72
	流域下水道維持管理負担金	50,000	14,566	29.13	13,290	1,276	9.60
	減価償却費（当期予定分）	330,546	165,272	50.00	163,939	1,333	0.81
	支 払 利 息	30,201	15,120	50.06	16,116	△ 996	△ 6.18
	そ の 他 支 出	6,733	1,734	25.75	1,468	266	18.12
	合 計	503,627	207,208	41.14	203,325	3,883	1.91

収益的収支
前年度上半期と今年度上半期 比較



収益的支出
前年度上半期と今年度上半期 比較



○ 資本的収支

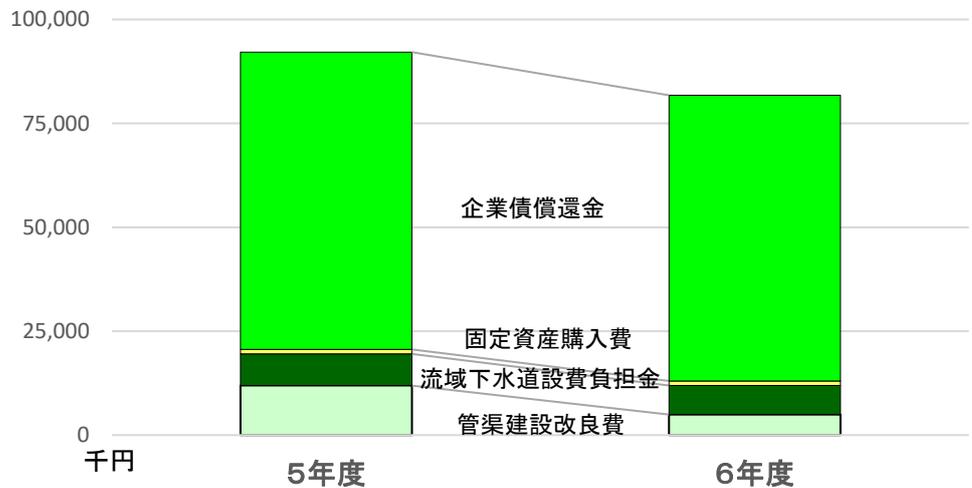
借入する企業債や国庫補助金等を財源とし、下水道管や雨水幹線などの新設・更新工事の費用、企業債の償還等に使用する予算です。

消費税込額

		予算額 (千円)	実績(a) (千円)	予算 執行率 (%)	前年度同期 実績(b) (千円)	前年度同期 からの増減 (千円)	増 減 率 (%) $\frac{(a)-(b)}{(b)}$
収 入	負 担 金 等	1	0	0.00	0	0	0.00
	企 業 債	53,900	0	0.00	0	0	0.00
	出 資 金	27,300	0	0.00	0	0	0.00
	合 計	81,201	0	0.00	0	0	0.00
支 出	管 渠 建 設 改 良 費	67,527	4,941	7.32	11,910	△ 6,969	△ 58.51
	流 域 下 水 道 建 設 負 担 金	13,995	6,986	49.92	7,620	△ 634	△ 8.32
	固 定 資 産 購 入 費	2,645	1,098	41.51	1,083	15	1.39
	企 業 債 償 還 金	138,220	68,735	49.73	71,524	△ 2,789	△ 3.90
	合 計	222,387	81,760	36.76	92,137	△ 10,377	△ 11.26

資本的支出 前年度上半期と 今年度上半期の 比較

※ 資本的収入については、前年度・今年度とも上半期の収入はありませんでした。



収益的収支・資本的収支 用語の解説

「長期前受金戻入額」 過去に施設の建設や固定資産の取得などの財源とした国庫補助金や負担金を、減価償却の割合に基づき収益的収入に計上するものです。当年度に現金が入ったわけではありません。

「減価償却費」 施設の使用による資産価値の減少を、耐用年数に基づく割合で毎年度の収益的支出に計上するものです。外部へ支払うものではありません。

「企業債」 施設の新設や更新工事の財源とするために国などから借入する借金を、「企業債」といいます。各
「企業債償還金」 年度の返済額のうち、元金分は「企業債償還金」として資本的支出から支払います。利息については、収益的支出の「支払利息」で支払います。

収入について	支出について
<p>収益的収入について、下水道使用料が、昨年より若干の増加となっています。</p> <p>他会計負担金について、今年度は上半期に収入しなかったため、減額となっています。</p>	<p>収益的支出では、管路施設の調査委託料の支払をしたため増額となっています。</p> <p>資本的支出では、工事費の支払等が、前年度同期より減少しています。</p>
<p>気象の変化などから家庭の排水量の増加により、下水道使用料収入が短期的に増加することはありますが、長期的にみると人口減少に伴う減収や、施設の老朽化による維持管理費、更新費用の増加などにより、下水道事業経営は厳しいものとなっていきます。また、下水道使用料は平成元年の消費税導入から改定しておらず(消費税率引き上げの反映を除く)、将来に向け下水道事業を継続するためには、改定を検討する時期となっております。支出面でのコスト削減や、施設更新の計画的施工による費用負担の平準化など、下水道事業経営の努力も引き続き行ってまいります。</p>	